

全国病児保育協議会のホームページ <http://www.byoujhoiku.ne.jp>

全国病児保育
協議会
広報委員会

病児保育協議会ニュース



＝今号の目次＝

- 1頁 協議会メール 会長メッセージ
- 2頁 厚生労働省への要望書
- 3頁 第19回大会追加報告
教育講演1まとめ
ワークショップ1まとめ
- 4頁 支部便り 三重県支部から
- 5頁 支部便り 愛知県支部から
熊本県支部から

北東北ブロックから

- 6頁 加盟施設紹介
西成医療生活協同組合病児保育室まつぼっくり
城東こどもクリニック病児保育室ことりの森
- 7頁 さくらまちの病児保育所行脚1
全国病児保育協議会新規加入の施設
- 8頁 編集部からのお詫びと訂正
病児保育協議会発行の書籍紹介
全国病児保育協議会新規加入の施設

協議会メール 会長メッセージ

全国病児保育協議会 会長 木野 稔

昨年(2009年)は、病児保育事業においても社会の変化と共に大きく動いた年でした。補助金制度が実績払いになったのは、一昨年の研究大会で「大規模施設は想定しない」と述べた厚労省担当官の言葉に我々が反発したことへの裏返しで、今度は小規模施設の切り捨てというしかありません。働く親とその子どもに安全と安心を保障する社会のセーフティネットの構築が必要な時に、利用の多寡のみで判断する制度には強く批判をしなければなりません。

また、新型インフルエンザの流行とその病状が明らかになるにつれ、病児保育室で新型インフルエンザ患児を預かってほしいというニーズが高まる一方で、施設やスタッフへの配慮は全くなされませんでした。国のパンデミック対策には他にも多くの問題点があり是非ともこの経験を今後活かしてもらいたいと思います。

昨年9月30日には、厚労省社会保障審議会少子化対策特別部会で病児病後児保育事業のヒアリングがあり、当協議会から現状と課題について説明を行いました。施設型の数が伸びない原因は、委託事業でありながら赤字運営を強いられている厳しさであることを訴

えました。これら一連の問題をまとめたものを、協議会から厚労省に要望書として提出しています(別掲)、また政権交代した民主党、内閣総理大臣あてにも出しました。

平成22年1月、政府は少子化対策基本法に基づく大綱として、平成22年度からの「子ども・子育て応援プラン」を発表しました。ビジョンの基本理念は「社会全体で子育てを支える」とし、個人への過重な負担を減らしつつ、少子化を食い止めることに主眼をおいているとのことです。

その中で、5年間を目途(平成26年度)として数値目標が掲げられ、病児・病後児保育事業をのべ31万人から、のべ200万人に利用者数へと約7倍に増やすとなっています。全保育園児が年1回ずつ利用できる数字です。平成20年度末の国庫補助事業845施設(病児型322、病後児型523)の総利用者数が30万9千人と報告されていますので、この数値目標を達成するには、体調不良児型(平成20年度319か所)を全国に広めて利用者数を増やすことが想定されているといわざるをえません。全保育所に看護師と保健室を設置するのは、当然必要なこ

とですが、医療と連携した中での保育看護という子どものための視点が欠けているのではと心配になります。昨年秋の社保審少子化対策特別部会でも、病児保育事業の特徴と運営の困難さを訴えましたが、一方では派遣型(NPOやファミリーサポートセンター)で施設型の増えないのを補完しようとする考えもあることを知り、安全性の面から多に疑問があることを強調しました。

最近になって、病児病後児保育事業が子育てのセーフティネットとして重要な役割を担っていると認識されだしたことは大変喜ばしいことですが、ニーズを満たすために数合わせで拙速に事業形態を変則的に広げようとする動きには警戒すべきでしょう。

会員の皆様には大変困難な状況におられることと思いますが、「社会全体で子育てを支える」という理念が掲げられた今こそ、もうひと頑張りしていただきたいと思えます。今年は協議会創立20周年となります。病児保育は子どもの病気という最も困難な状況において親と子を支える「究極の育児支援」であることを訴え続けていきますので、ご協力のほどお願い申し上げます。

厚生労働
雇用均等・児童家庭局長
伊岐 典子 殿

平成 21 年 11 月
全国病児保育協議会会長
木野 稔

病児・病後児保育制度の発展にあたり、日頃からご理解を賜り感謝申し上げます。

平成 20 年度「病児・病後児保育事業」の再編と平成 21 年度の制度改定を受け、本事業の健全な推進を願い、以下の点についてご配慮いただきたく要望いたします。

要 望 書

1) 平成 21 年度改定で利用実績に応じた補助方式に変更されましたが、設定された金額では基礎補助金額が少なく、大多数の施設が減額されることとなります。少なくとも現状を維持できるような基礎部分の増額を要望します。

病児対応型では、疾患の流行状況や隔離への配慮、予約キャンセルなど利用者数の変動が大きく、職員配置など不安定になる要因が大きいのが実情です。当協議会会員(病児対応型が主体)への調査では、平成 20 年度利用実績は年間施設当たり 538 人(中央値)でした。21 年度改定案では、400 人以上～600 人未満で 725 万となり、平成 19 年度の定額補助金 848 万から 123 万円の減額となります。調査した全体の 6 割の施設が減額されることとなります。病後児対応型では、さらに利用実績が少ないと予想され、このままでは事業撤退を余儀なくされる施設がでることは明白です。

2) 保護者負担金を、従来の概ね 2,000 円/日に固定し、その上で補助金単価設定の見直しをしていただきたい。

保護者負担額の設定は基本的には市町村にゆだねられているとはいえ、旧制度では概ね 2,000 円/日を前提とした固定補助額となっていました。新制度においては、事業費の 2 分の 1 相当を保護者負担としており、すでに保育料を支払っている利用者にとっては、過重な利用料負担となり、利用の抑制が懸念されています。一方、施設側としては、利用実績減はさらなる経営悪化となり、事業の安定的な運営は全く困難となります。このように、新制度による利用者負担増、補助金単価の切り下げは、病児・病後児制度そのものが崩壊するリスクが大きいことを指摘せねばなりません。本事業が子育て支援のセーフティ・ネットであることを、再度ご確認いただきたい。

3) 新型インフルエンザワクチン接種においては、「病児・病後児保育事業」に従事する看護師・保育士も医療従事者として優先接種の対象にしていただきたい。

本年 5 月の新型インフルエンザ A (H1N1) の国内発生以降、各地域の病児保育施設では、国の感染症対策に従って対応をおこなってきました。しかし、まん延期に入り、新型インフルエンザは季節型と同様に一般医療機関でも診療を行うこととなり、病児保育施設においても、就労支援として病状回復期に患児を預かる必要性が大きくなっています。病児保育に従事する看護師や保育士は、感染者と長時間かつ濃厚に接触せざるを得ず、診療に携わる医師以上に感染機会が大きいと考えられます。病児保育施設の看護師・保育士も医療従事者と見なしワクチンの優先接種対象者とするよう緊急にご配慮をお願いしたい。

4) 本事業への評価と社会的な理解を進める仕組みを構築していただきたい。

本事業への評価と社会的な理解を進める仕組みを構築していただきたい。実施施設を医療の専門性を有したセンター「病児の子育て支援ステーション」として位置づけること、その上で社会的な理解(行政の運営支援、企業の協力など)が得られる仕組みができることを願っています。「病児の子育て支援ステーション」とは、保育所職員や保護者を対象として介護ケア実習研修を開催すること、さらに電話相談を含む地域の子育て支援機能を有するものを想定しています。本構想が具体化するよう研究を助成し、理解が進むようにご配慮いただきたい。

全国病児保育協議会は、病児・病後児保育が国の施策として取り上げられた当初から、従事スタッフの研修や施設長の研修を重ね、実施施設の自己評価基準を作成するなど、病児・病後児保育の専門性向上、利用者への「安心・安全」を保障すべく努力を重ねてまいりました。また、毎年開催される研究大会には、厚労省から行政報告をいただく等、連携を密接にしてまいりました。今後とも、保育課との連携を密接にしつつ、男女共同参画社会、そして少子化社会における「子育て支援施策」の真意を損なうことなく、本制度の拡充、発展に向けて、本協議会としても努力を重ねていく所存であります。

第19回全国病児保育研究大会追加報告

教育講演1まとめ

ちょっと気になる子どもたち

講師：千葉県千葉リハビリテーションセンター
第二小児科部長 永沢 佳純 先生
報告者：まなこどもクリニック ポピンズルーム
原 真名



講師の永沢先生

県立リハビリテーションセンター永沢先生より、発達障害といわれている子どもたちについてご講演いただきました。

きました。

今回は教育講演のあとにワークショップも予定していたため、参加者の一部からアンケートをとり、講演内容を作ってくださいました。

アンケートで、今まで現場であった子で「気になる子」とは？という問いに対し、じっとしてられない、集団行動がとれない、こだわりが強い、パニックになる、などが挙げられていました。

永沢先生の講演では、まず、発達障害の種類；精神遅滞、広範性発達障害、自閉症酢ペクトラム、

注意欠陥多動性障害、学習障害などについて、大体の説明がありました。

病児保育室のスタッフが知っておくべきことは、診断をつけることではなく、こどもの評価法と、具体的な支援策であること。発達障害を疑ったら、どんな支援が有効だったか、親御さんに伝えること。親御さんとの信頼関係ができてから受診をすすめること。

また、病児保育室で子どもを預かる時、預かり困難な状況が起こりうるのは広範性発達障害かADHDだろうと思われるため、それらのお子さんがどのような困難を生じるか、予想し、対策を考えてくださいました。

・母とはなれるときパニックになる・・・事前に場所にならしておく、好きなおもちゃを持ってくる、別れるときに母の姿を見せない

お迎えの時間を本人にわかるように具体的に伝える など

・他児にけがをさせる・・・ついたてで見えなくする 大人が間にはいる 投げても平気なものしか出さない

・高いところにのぼりがたがる・・・登れないようにする 登りたくなってから抑えることは困難

・聴覚過敏で他児の泣き声などでパニックを起こす・・・音を遮断する道具をつかう 音がとめられるなら止める 他の音楽をかける また、病児保育で安全に預かるために、事前に確認するとよいこととして、感覚過敏、好きなこと、安心できること、こだわり、自傷・他害の有無、予測される危険なこと、パニックを起こす原因と対処法、理解・表出の程度、見通しを立ててあげる手段などを挙げていただきました。

先生のお話全般にわたって、子どもをみるあたたかい視線を強く感じました。普段から様々な苦勞を抱えていらっしゃる子どもたちや保護者たちを、どのように支援していくか、病児保育室という小さな保育集団でも、できること、やっていかなければならないことがある、と思いました。

ワークショップ1

「ちょっと気になる子どもたちへの理解を深めるために」

報告者：まなこどもクリニック ポピンズルーム

佐藤 千里

病児保育室では単発でのお預かりが多いため、その子の本来の姿を見ることは難しいですが、日々の保育の中で「おや？ちょっと気になるな・・・」と思う子どもたちが多いように感じていました。永沢先生の教育講演にひきつづき、もう少し踏み込んだ勉強をしたいという声があり、ワークショップを企画しました。

永沢先生からは、「診断をつけることよりも支援が大事、対策はとれる！！」という心強い言葉をいただき、子どもの行動を把握するために、お母さんから、より具体的な内容を引き出す質問の仕方

を学ぶことをテーマとしました。

当日参加者数は20名。4グループに分かれてディスカッションを行いました。

ちょっと気になる子どもたちに出会ったとき、どのような質問をしたらお母さんからお子さんを安全に預かるための情報が得られるか、グループ毎に考えてもらう項目を振り分けました。

内容は、①感覚過敏について(聴覚・視覚・温度覚・味覚と嗅覚)

②こだわりについて ③自傷・他害について ④予測される危険なこと ⑤パニックを起こす原因と対処法 です。

参加者の方には、事前に永沢先生の講演を聴講して頂くことをお願いしてあったので内容についてはイメージしていただいていたかと思えます。

私の参加したグループは、話し合う内容の一つに感覚過敏の温度覚が振り分けられました。

思い当たる症例は、すぐに浮かばない状況だったので、予想されることを出し合いました。

例えば、
・ミルクを飲んでる赤ちゃんで、私達が適温と思われるミルクを準備しても、その子が受け付けないことがある。冷えたミルクや熱めのミルクを好む子がいる。

・オムツ交換時、おしり拭きを使用すると泣いてしまう子がいる。突然の冷たい感覚が苦手なのは。

・診察で泣く子は多いが、聴診器の冷たさに過敏な子もいるのでは。

などの例があがりました。

小さなことのようにありますが、事前にお母さんから情報を得られていれば、そのお子さんは、泣く回数が減り安心して過ごせるのではないかと思います。

過敏とまではいなくても、その子の不快と感じる状況を除去してあげる細かなケアが私達に求

められていることを実感しました。どのグループも活発な意見交換ができ、時間はあっという間に過ぎました。

働く施設は違っても、同じような悩みを持っていることを共感しました。そして、どの方たちもプロ意識を持って、子どもたち一人一人を細かく観察していることを強く感じました。

ディスカッションの後には、グループ毎にまとめた内容を発表

し、永沢先生から実例を含めたとても丁寧なアドバイスを頂きました。

参加人数は少なく、発達障害を取り上げたワークショップは初めての試みでしたので、どのような進行状況になるか不安で一杯でしたが、永沢先生との距離も近く感じられ、とてもまとまりのあるワークショップでした。ここでの学びを、ステップアップさせていきたいと思っています。

東 西 南 北 支 部 便 り

三重県支部から 平成21年度病児・病後児保育研修会 四日市市病児保育室カンガルーム

平成21年11月15日(日)、三重県と全国病児保育協議会三重県支部の主催により、「平成21年度病児・病後児保育研修会」を三重県津市にて開催しました。この研修会は、保育関係者に病児・病後児保育への理解をより深めてもらうことを目的として、病児・病後児保育施設での取り組みを紹介するとともに、保育の分野に関わらず共通して必要なテーマについて合同で学ぶ場としました。

そこで開催にあたっては、病児保育関係者だけでなく、三重県の協力も得て、県内の認可保育所、認可外保育所(企業内託児所)、そのほかファミリーサポートセンターなどへも参加の呼びかけを行いました。その結果、当日は様々な事業所からお越しいただき、会場が満席になるほどの参加者(119名)となりました。

研修会は熱田裕三重県支部長の挨拶に始まり、三重県健康福祉部子ども局子ども家庭室の宮本室長からの行政説明の後、緑園こどもクリニック院長の山中龍宏先生と四日市市病児保育室カンガルーム施設長の二宮剛美先生からそれぞれご講演をいただきました。

前述したように、今回の研修会は病児保育関係者と保育関係者

が、分野を問わず必要となる知識の習得を合同で行なうことを想定していたので、「子どもの事故予防は共通して重要なテーマ」との考えから事故予防を取り上げることとなりました。

そこで、全国病児保育研究大会in千葉にて「事故による子どもの傷害へのアプローチ」の題名でご講演いただいた山中先生に、同じテーマでのご講演をお願いしたところ、ご快諾をいただき、はるばる横浜から三重県までお越しいただくことができました。滑り台の螺旋階段からの転落事故、アイロンでの事故、ベッドからの転落事故など、具体例を取り上げながら展開される示唆にとんだご講演を聴講しながら、真剣な眼差しでメモをとる参加者の姿が印象的でした。

続いて二宮先生からは、「病児保育と感染予防の対策」の題名で、保育する上で気をつけなければならない感染症とその対策、及び病児保育の現場では具体的にどのように取り組んでいるかを、実際の病児保育室カンガルームの写真を交えながらご講演いただきました。感染予防対策も分野にかかわらず重要なテーマであり、こちらの講演も皆さん熱心に聴講され

ていました。

研修会後に行なったアンケートからは、「事故に対する認識が甘かった」「原因を調べることが大切だと思った」「病児保育の現状がよくわかった」などの声に加えて、このような研修会の開催を今後も望む声が非常に多く寄せられました。

今回のように、病児保育施設側から研修会を主催して情報発信していくことは、保育関係者への病児・病後児保育の認知度向上につながります。また、病児・病後児保育の専門家集団として、日々の業務の中で蓄積されたノウハウを保育関係者や地域住民へ還元していくことは、健康な時も病気の時も、そして場所が変わっても、子どもたちが一貫して良い環境下で保育を受けることができる社会の構築につながっていくはずです。

現在のところ、三重県とは来年度も開催する方向で話をしています。それ以降も形は変わっても、保育関係者及び地域社会との連携、信頼を深められるように継続して取り組んでいきたいと思っています。



東 西 南 北 支 部 便 り

愛知県支部から 第4回愛知ブロック交流集会 すくすくこどもクリニック 赤星

平成21年6月6日(土)に第4回全国病児保育協議会愛知ブロック交流集会が、11施設44名の参加で、豊田市のすくすくこどもクリニック 病児保育室「すくすくの森」で行われました。

まず、分科会をおこない2つのテーマに分かれて勉強しました。

①「お薬について」の講師は、病児保育室「すくすくの森」に隣

接する、ライフ調剤薬局薬剤師 前田豊先生です。病児保育室で取り扱う薬の概要と薬剤取扱時の基本的な注意事項、有効的(友好的)な内服方法という内容でした。

②「母子関係の話」は、江南短期大学准教授 小原倫子先生に乳幼児期母子関係の調査から浮かびあがる現代の赤ちゃんとお母さんの関係についてご講義いただきま

した。

分科会の後は、懇談会を行い、1グループ5~6人で、現場の声を情報交換でき楽しく貴重な時間でした。「解決はできなくてもお互いに悩み事や工夫している事を話し合い共感してもらえるだけでも気持ちが楽になりました」との参加者からの感想です。



熊本県支部から 熊本県支部研修会 NPO 法人チャイルドケアサポートみるく 永野 和子

2月7日に全国病児保育協議会熊本県支部の研修会を行いました。熊本県支部は、毎年一回、熊本県下の病児・病後児保育施設が一堂に会し、研修会を開催しています。支部長である玉名市のレインホール前田利為先生からは、「毎年変わる国の政策の中で、



出来高制が導入され、現場は厳しい状況にあるが、子どもたちのために、がんばりましょう」というご挨拶をいただき研修会がスタートしました。

今年は、どの施設でも混乱している「新型インフルエンザの感染対策」について、熊本市の杉野クリニック院長で、NPO法人チャイルドケアサポートみるくの理事長でもある、小児科医の杉野茂人先生からお話をいただきました。熊本県では、1つの施設以外は、新型インフルエンザをお預かりしておらず、後の施設は利用者からの「何とかしてほしい」という悲痛な叫びの中で、ジレンマに



陥っているのが現状です。参加者からは「予防接種の優先順位を、病児保育室の職員にも適応してもらえるよう、働きかけてほしい」などの要望がだまりました。

その後、県内の3施設から「感染対策」について、どのようなことに気をつけているかなどの事例発表をしていただき、参加者から「オムツの処理について」や「感染室・一般室の職員の配置と施設内での移動について」など様々な意見交換がなされ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

北東北ブロックから③ 第7回北東北病児保育交流会春季研修会 城東こどもクリニック 病児保育室ことりの森 佐藤 誠子

去る4月11日(土)第7回北東北病児保育交流会 春季講習

会を弘前市駅前市民ホールにて開催いたしました。今回の交流会で

は全国病児保育協議会の顧問、ほあしこどもの心クリニック院長 帆足英一先生を講師に迎え、『新・保育所保育指針を踏まえた保育所、病児・病後児保育における保健管理』という演題で講演していただきました。

ご講演の内容が今春、改定された保育所保育指針に沿った保健管

理ということで、病児保育施設だけでなく一般の保育園にも興味深いものと思われ、会員施設に限らず、保育所、医療関係者、教育機関など保育保健に関わる先生方へ広くご案内をさせていただきました。帆足先生のお話を聴けるとあり、会員15施設だけでなく、弘前市内外67施設から約200名近い(当日参加を含む)の方々のご参加がありました。

講演前半は、PART1で保育所の現状と保育所保育指針の改定について、PART2で病児・病後児保育の現状と課題についてお話しいただきました。まずは保育所における保育士数の考え方や看護師の配置率の問題、規制緩和による保育の質の低下の問題などの指摘、望まれる改善への視点について話されました。

次に、新保育所保育指改にあたっての基本的な考え方について、帆足先生が改定にあたって実際感じたことなどを交え、分かりやすく話して下さいました。続い

て病児保育事業の制度や補助金負担割合の変遷、実施施設の形態についてと保育看護の専門性についてのお話がありました。そこで一旦休憩をはさみ後半へ。

後半、PART3では保育所にも関係のある与薬と食事アレルギーのお話からはじまりました。与薬の法的な理解の仕方や原則について、また薬を預かる際の確認事項や基礎的な知識について話されました。食事アレルギーについては事故事例を交え、アナフィラキシーショックに対する保育者としての対応や防止策についてとても分かりやすく話して下さいました。

PART4では保育者に求められる家族へのあたたかい援助と題して暖かい印象を受けるイラストを交え、愛着形成の形成過程についてやキレる子どもについて話して下さいました。相談にあたっての基本的な姿勢について具体的に話しされ、わが子に『愛されている実感』を伝える子育てという

メッセージを最後に私たちに伝え講演を終了いたしました。

座長を秋田県湯沢乳幼児健康支援センター園長、岸登先生にお願いしましたが、秋田弁で講演をやかなものにしていただき、大変好評でした。

途中の休憩のとき、前半の保育所や病児・病後児保育の制度や補助金の話は、少し難しかったとフロアの方から聞こえてきましたが、後半は、自分たちの現場でも起こりうるような事例の話や保育者自身の実践に近い話の内容だったので、講演会終了後のアンケートでは勉強になったという声が多く寄せられました。実践に生かしたいというコメントや、今まで自分が実践してきたことは間違っていなかったんだと再確認できたというコメントもありました。

今回の講演は保育所、病児・病後児に関係なく、子どもに関わる保育者として、とても大事なことを学べた機会だったと実感しています。

★ ☆ 加 盟 施 設 紹 介 ☆ ★

西成医療生活協同組合

病児保育室まつぼっくり

「まつぼっくり」は平成21年10月に大阪市西成区では初めての医療機関併設型病児保育室として開設しました。

まだ、開設したばかりの施設ですので利用者が定員に満たない日がほとんどです。開設時間の見直しや他院との連携など、より利用しやすく安心できる保育室を目指していきたいと思っています。

また、病気の時だけでなく子育てに悩むお母さん・お父さんをいろんな面でサポートできたらと子育て学習会や親子で参加できる行事を計画中です。

12月に行ったクリスマス会では、たくさんの親子が集まってくださり、楽しい時間を過ごしました。保

護者からも今後、予防接種、アレルギー、睡眠などをテーマに学習会を開いてほしいという要望や期待の声も寄せられています。

そういった声にこたえられる地域の中になくならない施設になっていけたらと思っています。

前田 梨少子

所在地：557-0034
大阪府大阪市西成区松
2-1-35 こつまの里3階
TEL：06-6656-6105



城東こどもクリニック

病児保育室ことの森

当施設も開設して6年、たくさん子どもたちと触れ合い、保育看護について日々精進してまいりました。

病児保育ならではの遊びってなんだろう？回復に向け、楽しく1日を過ごすための保育者の関わりについてスタッフ間でディスカッションし、保育看護計画を立案し、保育にあたっています。

保育看護計画、指導計画はスタッフ間の共通理解につながり、日々の保育看護実践には欠かせないものとなっています。

これからも病児保育研究大会、ブロック交流会に参加し、病児保育における保育看護について、学習していきたいと考えておりま

す。

保育士 竹内 郁子
所在地：036-8092
青森県弘前市城東北
4-4-20
TEL：0172-29-3112



さくらまの病児保育所行脚 = 1

帝京平成大学 田邊ますみ

おはなし、おはなし、「さくらまの」田邊ますみの病児保育所を訪ねる旅にお付き合い願います。まず今回は、自己紹介いたします。

【私の願い】

子どもが病気の時でも、子どもの豊かな心をサポートしていきたい、病気の時でも保育を保証したい。これが、私の願いです。

私の旧姓は、「さくらい」、花が好きです。育児の原点には、待ち、見守り、自立を促すことがあります。私は、考えるより先にまず行動。待てる人間になりたい。これが私自身への願いです。

【なぜ病児保育か】

1986年(昭和61年)に長男が誕生してから、1996年(平成8年)まで、四人の子どもに恵まれました。いろいろ仕事を変えながら、夢中で育てる中、最も大変だったのが、子どもの病気であり、休めない仕事との両立に悩みました。

子どもが病気の時、夫や私が休んだり、親戚にヘルプを出したり、ベビーシッターを頼んだりしました。一人の子どもの風邪ならば、何とかこれでしのげましたが、四人が次つぎに感染症にかかるとお

手上げでした。

結局仕事を変えた大きな理由は、子どもが病気で休んだことでした。失職した時大学で学ぶ機会を得、テーマを「子どもが病気の時のケアについて」にしました。今一番知りたいことを探求する時間を自分に作るのには、大変贅沢なことでした。

病気の子どものケアについて、自助努力では足りずに、公的援助を探ると病児保育所がありました。

【私の疑問点】

- ・病児保育所の日常とは何か
- ・病気の子どものケアに、保育士を入れる必要性はどこにあるのか。
- ・病気でもなぜ子どもは遊ぶのだろうか

【いよいよ出発】

私が病児保育所を巡り始めたのが、1997年です。その当時全国病児保育協議会加盟は、62施設でした。その件数ならば、全部行けるのではと期待しました。ひたむきに歩いてみたい、そこから新しい方法論が見つかるかと思いました。

まず、行動。最初に行ったのが、

世田谷区の東京都立母子保健院です。1997年2月14日に見学をお願いし、2月21日に訪ねています。

【東京都立母子保健院】

全国病児保育協議会顧問の帆足英一先生がその当時母子保健院にいました。そのお力で、付属乳児院に病児保育が設けられたのだと推察します。

現在では都立病院統合化で廃院となり、乳児院も病児保育室もなくなっています。

まず、新井係長と婦長から話を伺いました。新井係長さんからは、「子どもの受け入れについて、遠くから来ることが問題で、地域の近いところに病児保育の施設が必要だ」と伺いました。

婦長さんは言いました。「男の発想は、箱物を作り施設ができればそれに任せる。環境を変えないでケアすることも大切」「女の発想は、病気の子どもを集めるのではなく、人を派遣すること」

次に病児保育室を覗くと、二人のお子さんの利用がありました。その当時利用年齢が3歳まで、というのも特徴的でした。

なぜ、そこに病児保育所という箱物ができたのか、その理由を知りたくなりました。

以下次号に続く。

全国病児保育協議会新規加入の施設

445 ◆病児病後児保育室ノア
施設管理者 神澤 光江
〒673-0433
兵庫県三木市福井 3-15-9
TEL:0794-83-5960 FAX:0794-83-5960
446 ◆ひなたぼっこ
代表 常丸 香織
〒080-0045
北海道帯広市西 15 条北 4-2-7
TEL:0155-41-0661 FAX:0155-41-0661
447 ◆瑞江わんぱくクリニック
病児保育室わんぱく
院長 小林 裕之
〒133-0065
東京都江戸川区南篠崎町 3-1-2 渡辺ビル 1 F
TEL:03-3698-6531 FAX:03-3698-6532
448 ◆ならぎ小児科
病児保育室「ぞうさんの家」
理事長 檜崎 修
〒811-0202

福岡県福岡市東区和白 5-7-15
TEL:092-605-7377 FAX:092-605-7376
449 ◆山田病院 病児保育園 ミッキー
理事長 地守 研三
〒501-0104
岐阜県岐阜市寺田 7-86
TEL:058-255-1221 FAX:058-255-1222
450 ◆遠賀中間医師会おんが病院
病児・病後児保育室 ぞうさんルーム
院長 宮崎 亮
〒811-4342
福岡県遠賀郡遠賀町大字尾崎 1725 番地 2
TEL:093-281-3851 FAX:093-281-3851
451 ◆医療法人 尾崎医院付属病児保育室ウルル
医師 尾崎 真理子
〒578-0941
大阪府東大阪市岩田町 4-3-22-206
TEL:072-968-7227 FAX:072-962-2231
452 ◆よしだ小児科医院 病児保育室 りんご
施設長 吉田 雄司
〒802-0077
福岡県北九州市小倉北区馬借 3-3-36
TEL:093-531-7741 FAX:093-531-5139

好評販売中です

「改定 新病児保育マニュアル」

- B5版 420頁
- 価格 1冊 会員3200円
(送料・税込み)
非会員4200円
(送料・税込み)

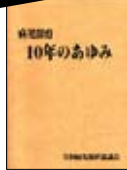


病児保育に関する事がすべて網羅されたバイブル的マニュアル本です。平成21年度改訂版です。一人に1冊持っていたいただきたい必読書です。

「病児保育10年のあゆみ」

- B5版 104頁
- 価格は 1冊1600円
(送料・税込み)

残り50部



全国病児保育協議会設立10周年を記念して発行され、設立当初からの歴史を網羅しました。

※ご購入は、全国病児保育協議会のホームページより申込書をダウンロードしてFAXにて全国病児保育協議会事務局までお申し込み下さい。

「施設紹介コーナー」「東西南北支部便り」を連載中！加盟施設のみなさん原稿をどしどし送ってください。また、各施設で特に取り組んでいることや楽しい出来事などがあれば、紹介させていただきます。原稿をお待ちしています。

＜協議会ニュース 編集事務局＞

〒531-0076 大阪市北区大淀中3丁目15-5
(株)関西共同印刷所内 藤本 文孝 宛
TEL.06-6453-3675 FAX.06-6442-5788
E-mail fumifumi1@cronos.ocn.ne.jp

第20回記念研究大会について

全国病児保育協議会が発足してから今年で20年を迎えます。発足当初は、加盟施設14施設からの出発でした。現在の加盟施設数は、447施設となっています。

今年の研究大会は、20周年記念大会として平成22年7月18日(日)・19日(月祝)の2日間にわたり東京ビッグサイトにて開催されます。この記念大会に多数の会員のみなさまに参加いただきますようお願いいたします。

大会ホームページは

https://apollon.nta.co.jp/hoiku_2010/index.html

ー編集部からのお詫びと訂正ー

病児保育ニュース編集担当者の校正ミスにより病児保育ニュース第52号・第19回大会特集号で間違いが2カ所ありました。以下のように訂正させていただきます。

- ①シンポジウム・基礎講演まとめの報告者が、「大分こども病院キッズケアルーム 藤本保」先生になっていましたが、正しくは「全国病児保育協議会会長 木野稔」先生でした。
- ②ポスター発表報告でポスター発表4「管理・運営Ⅱ」座長・報告者が、「東小岩わんぱくクリニック病児保育室東小岩わんぱく 小島博之」先生になっていましたが、正しくは、「ぼけっと病児保育室の島村恵美子」先生でした。

関係各位のみなさまに大変ご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

全国病児保育協議会新規加入の施設

453 ◆今給黎総合病院・昭和会クリニック
リトル・ディアーズ

小児科部長 玉田 泉

〒892-8502

鹿児島県鹿児島市下竜尾町4番16号

TEL: 099-226-2211 FAX: 099-222-7906

454 ◆社会福祉法人はまのくに

ひよこ乳児保育園内病後児室

園長 狩野 典子

〒526-0845

滋賀県長浜市小堀町66番地1

TEL: 0749-63-8892 FAX: 0749-63-8944

455 ◆ぶくぶく

園長 古川 縫子

〒869-3601

熊本県上天草市大矢野町登立9249-2

TEL: 0964-56-2778 FAX: 0964-56-3442

456 ◆医療法人社団愛光会インター通り小児科

理事長 新田 温英

〒052-0012

北海道伊達市松ヶ枝町30番地8

TEL: 0142-21-3366 FAX: 0142-21-3377

457 ◆子育て支援ハウス ChipS (ちっぷす)

代表取締役 佐伯 抄織

〒080-2476

北海道帯広市自由が丘6丁目1番地13

TEL: 0155-41-6272 FAX: 0155-67-1040

458 ◆医療法人榎本産婦人科

理事長 榎本 修

〒646-0041

和歌山県田辺市北新町23番地

TEL: 0739-22-0019 FAX: 0739-22-0519

全国病児保育協議会事務局

〒535-0022 住所: 大阪市旭区新森4-13-17 社会医療法人中野こども病院気付

担当: 藪田・堀込

電話: 06-6952-4778

F A X: 06-6954-8621